

学生図書委員だより

発行・二〇〇九年九月
編集・学生図書委員

No.8



今月の二首

ずいずいと悲しくれば一匹
のトンぼのように本屋に入る

安藤美保

本屋さんとは、トンぼが翅を休めるため
の、小さな止まり木。

殺してもしづかに堪ふる石た
ちの中へ中へと秋蜻蛉 ゆけ

水原紫苑

秋の始まりは遠い冬の予感。蜻蛉はい
つも、冬に向かって飛んでゆく。



An
autumn
wind

足跡塾 第六回 桜庭一樹の巻

昨年直木賞を受賞して、今 表作の『崖の館』から。崖の館
脂がのりにのっている桜庭一 樹。この方も大変な読書家&
海外文学好きですので、影響 を受けた作家は数知れず。何
しる年に四百冊読むそうです からね。

ここでは桜庭氏の著作でも 重要なキーワードのひとつ、
「少女」の印象的な書き手を 挙げましょう。最近著作が
続々と復刊され、再評価が高 まっている佐々木丸美をご存
じですか？ まずは代 表作の『崖の館』から。崖の館
脂がのりにのっている桜庭一 樹。この方も大変な読書家&
海外文学好きですので、影響 を受けた作家は数知れず。何
しる年に四百冊読むそうです からね。

ノンフィクションって、事実が
書かれているということだから、
結局誰が書いても同じでしょ
なんて思っている人、多いんじ
やないですか？
小説好きな人には、ノンフィク
ションを手取る機会ってあん
まりない。けれど、扱テーマや
結論が同じでも、作者の感性によ
って、がらつとイメージが変わる
のがノンフィクションの面白い
ところなのです。「事実」が描か
れるからこそ、作者のセンスが問
われる分野と言えます。
今回は小説好きにも読みごえ
たっぷりなノンフィクションを
ご紹介。まずは『生物と無生物の
あいだ』（福岡伸一）。新書の手軽

さとは予想外の、文章の美しさ
に圧倒されます。生命の謎を詩
的な文章で解き明かす力作。
『それでもトキメンタリーは
嘘をつく』（森達也）は、トキ
メンタリーを撮ることによって
生まれる葛藤と煩悶が赤裸々
に、そして何より真摯に綴られ
た一作。きちんと自分で考える
こと」を見直すためにもオスス
メの本です。

そして、ノンフィクション小
説の『嘘つきアーニヤの真っ赤
な真実』（米原万里）。一九六〇
年のプラハでソビエト学校に通
っていた著者。あのころの魅力
的な学友達は、今 。激動の
東欧史が生き生きとしたクラスメ
ートたちの思い出とともに語られ
ます。収録されている三編すべてが
素晴らしいので、ぜひ読んでみて下
さい。
最後に、学生である今、読んでお
きたい『二十歳のころ』（立花隆）。
有名・無名を問わず様々な大人の、
二十歳のころを振り返ったインタ
ビュー集です。悩める年齢だからこ
そ、含蓄あふれる先達の声に耳を傾
けてみませんか。



センスが大事

特集 ノンフィクションこそ